

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2292100159		
法人名	(有) 介護サービス サンセイ		
事業所名	グループホーム いこいの家 北山		
所在地	静岡県富士宮市北山4777-1		
自己評価作成日	平成27年3月24日	評価結果市町村受理日	平成27年12月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=2292100159-00&PrefCd=22&VersionCd=
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限会社 福祉第三者評価・調査事業部		
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1		
訪問調査日	平成27年4月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームをいかに第2の自宅のように、過ごしていただけるか職員と入居者様が家族の様に信頼関係を築けるかに力を入れています。 入居者様のその日の状況・状態にもよりますが、基本的には車イスなどは使わずご自分の力で最後まで歩いていただくように心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

富士宮市の静かな郊外に位置し、管理者は広い敷地の整地から携わり、職員と共に利用者本位の運営を目指している。理念としては、法人共通の理念である、豊生・共生・明生を表す「サンセイ」掲げている。そのホーム独自の理念を基に、年間目標を定めて活動している。管理者としてのリスクを恐れず、夜間の外出や夏冬に応じた生活等のホームに居ても普段家で暮らしているような自然に近い生活環境を目指している。職員とはスタッフ会議で信頼感溢れる率直な意見交換が行なわれ、家族からは9名中8名からアンケートが寄せられ、感謝の気持ちが述べられている。広い敷地を活用した地域サロン等の次への展開も楽しみである。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各事業所共ですがサンセイの基本理念を掲げホーム内で年間目標を立て掲示し常に意識づけを図っています。	法人サンセイの理念を受け、ホーム独自の理念として「・・・心を元気に・・・」が毎年のホーム目標や個人目標に展開され、地域密着型に相応しい介護の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	2か月に一度運営推進会議に地域の方に出席をお願いしています。	区長の理解と協力が有り、地区の祭りでは区民会館に利用者の席を準備してくれる・地域防災への参加等で地域の一員として日常的に交流している姿が伺えた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成講座の講師など要望があれば行える体制を整えています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度運営推進会議を実施し、ホームの状況や取り組みを報告させて頂き参加者の皆様と意見交換や情報交換をし今後のホームの運営に反映させています。	行政・地域の参加は勿論のこと、3家族ずつ利用者・家族の参加を求めている。2ヶ月に1回着実に開催され、ホームの運営に活かしている。	家族の参加要請が継続されているが、参加者増のため、開催曜日や時間・内容等の工夫が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市職員・包括職員の参加を頂き協力関係や情報交換を図っています。	法人やホームとの連携が取れており、日常の報告や連絡・相談が行われている。困難事例受け入れの相談もある。行政からの要請もあり、昨年は北海道から九州までの「ラントモ・キャラバン」にも参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束0を掲げ各職員が意識し取り組んでいる	身体拘束0宣言を行っている。マニュアルを整備し、研修により「具体的な禁止対象事項」を職員と共に共有化し、拘束の無い介護に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	15ヶ条にも掲げてあるように「自分がされて嫌な事はしない」を常に意識し介護するように心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者様の権利を侵害しない様に、配慮している 日常生活自立支援事業についても知識を深め対応できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、解約や改定についてご家族との話し合い説明の場を設け対応しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の案内を家族に送付しています。 欠席の場合もご意見・ご要望なども返信の際に記入して頂くようにしています。	電話や面会時の日常の対話ならびに運営検討会等を通じて、意向の把握に努めている。 また、運営検討会の開催案内に欠席の場合も意見・要望を求め、利用者・家族の意向が運営に反映されるよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議を実施し職員の意見を聞き検討するようにしています。 日常業務においても、申し送りノートを使い意識の統一を図っています。	利用者本位の考え方に基づき、厳しいくらい「スタッフ会議」での徹底を図っており、職員はそれを当たり前の事として受け止めている。 活発に意見を具申し、管理者と一丸となりホームの運営にあたっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員に自己評価表を記入して頂き管理者は、職員の勤務態度等を観察し客観的に評価しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社、全体で職員育成のプログラムを用意し一人ひとりのスキルアップやモチベーションアップを進めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	小規模ホーム部会に参加し研修会や交流会を通して他事業所との交流に取り組んでいます。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時にご家族様に生活暦等話を聞きご希望やご意見を把握するようにしています。 ご本人にも話を伺い、少しでも気持ちを汲み取るように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族と面会し施設見学を兼ねて現在の状況や要望を伺っています。 入居後も、常時相談に応じ信頼関係の構築に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	前施設からのアセスメント、ご家族からのお話、病院からの看護サマリー等の情報提供を素に状況や状態をよく観察しサービスの提供に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	見守りを重視し家事等、その方が出来る事を見つけ、一緒にして頂く様にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診や個人的な必需品の用意はご家族にして頂き、面会時や定期的なお便りを通じて様子を伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	常に面会の受け入れをしています。年賀状を作成しご家族に送付しています 誕生日など、個人の希望にそって馴染みの場所に出掛けたりしています。	馴染みの関係を絶やさないために、温かく面会者の受け入れている。誕生日には特別の好物や公園自宅等の好きな場所への案内、年賀状の作成の手伝い等を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様それぞれの状況を職員が把握し配慮している。 お互いに良い関係を保てる様に支援しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も必要に応じて、相談や支援に努めている。ご家族からの問い合わせ等にも応じています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族様から話をお伺いし本人本位の支援が出来るように努めている。入居者様にも、話を聞き思いを汲み取るようにしています。	発語が不可能な利用者に対して、言葉はもらえなくてもつないだ手の感触やふと浮かぶ和みの表情から利用者が心地よく感じられる状況をキャッチしている。職員は共有して意向に沿った暮らしの支援に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族に馴染みの暮らし方や生活状況をお伺いするようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様のそれぞれの過ごし方や状況を午前・午後・夜間と分けてケア日誌に記録し現状把握に努めて職員間でも情報共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人や家族と話をしご意見やご意向を確認しています。スタッフ会議や、日々の連絡ノートに記載しそれらを介護計画に反映させています。	入居時に家族と作成したアセスメントと職員のケア日誌を基に介護計画を作成し、3カ月もしくは6カ月後のモニタリングで必要に応じて見直しをしている。家族の意向も確認した上で、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様の個々の様子や状況を記録し申し送りノート等を使い職員間で情報共有しながらケアや介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様の状況や思いや認知症の症状を把握して臨機応変に対応出来るようにしています。ご家族の要望にも柔軟に対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方の中にお野菜などを収穫しホームに持ってきてくださる方などもあり、今後も繋がりを大切にしていきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、入居者様とご家族様の意向を重視して基本的に受診はご家族様にさせて頂いています。必要に応じて職員が同行する事もあります	本人や家族の意向により従来からのかかりつけ医を主治医として家族同伴で受診している。診断や薬歴情報等を家族や医師・事業所が共有し、適切な支援に取り組んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在職場内に看護職はいませんが、同社内の看護職に電話にて相談や、各かかりつけ医への相談等にて対応しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様の入院時には病院側に必要な情報提供をすると共に、病院側からも情報を頂くように努めています。 退院時には、状態や生活上の注意点等の指導をお伺いしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、看取りのについて説明し意向確認書用意しています。 重度化・終末期を迎えるにあたり、意向確認・看取りの承諾書を頂きます。 協力医・かかりつけ医との連携をとりチームケアに取り組むように努めます。	重度化した際に事業所で出来ることを入所時に説明している。回復が見込めないと判断された時に改めて家族の意向を確認している。インターネットを用いた職員研修で、看取りや介護全般のスキルアップに取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内研修・社外研修等で応急手当や初期対応について研修しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難誘導訓練・夜間避難訓練を実施しています。 近隣の方々にも協力をお願いしています	防災訓練を実施し、食糧や介護用品の備蓄も始めている。敷地内に防火水槽があり、AEDも設置している。これらは地域の方にも利用していただける。	地域に事業所が提案出来ること、また地域にお願いしたいことをそれぞれ整理して相互に協力し合える関係作りを期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様に対し、敬意を払いプライバシーの保護に気を配っています。 言葉かけや対応についても会議等にて職員に認識を促しています。	忙しさや慣れによって言葉遣いや礼儀等を忘れがちなことをスタッフ会議等で注意を促し振り返っている。職員は利用者や家族に喜んで頂ける事業所を目指して日々取り組んでいる。	記録類がカウンターに見られたがカバーする等して注意を喚起したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様が気軽に自分の気持ちや希望を口に出来る様な環境や人間関係に努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様のペースに合わせ生活できるように支援しています。 個々の希望を重視し対応しています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に一度髪をカットして頂き、爪や髭などもこまめに整容しています。 洋服等も可能な限り本人の意向をくむようにしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、手作りで家庭的な料理を提供しています職員も皆さんと一緒に会話をしながら食べています	利用者が調理に参加する機会は少なくなりつつあるが、食器拭き等の出来ることをお願いしている。温かい物や冷たい物がタイミング良く食べられる心の籠った食事が提供されている。庭での食事やお茶も楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事の摂取量や水分摂取量を把握しケア日誌に記録しています 献立も記録し食が偏らない様に工夫しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、必ず口腔ケアを行い夕食後は義歯を外し、洗浄液等に浸け置きにしています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックシート・排便チェックシートを使い個々のリズムを把握し声掛け・誘導・介助をしている。	排せつチェック表の活用は利用者の自立を促すのみでなくおむつ代の軽減にもつながることを職員が自覚し、声かけ誘導を適切に行っていた。また介助用品の扱い方も統一するよう職員に促している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事・水分量・運動等を考慮し可能な限り自然な排便を促進しています。 また、便秘の方もかかりつけ医と連携し対応しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	特に入浴する曜日・時間を決めずに入浴して頂いています。 完全個室で対応しています。	利用者がこれまでの習慣が継続できるよう、入浴時間帯もなるべく希望に添える取り組みをし、週3回入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様一人ひとりが自由に休息したり、就寝しています。 状況・状態に応じて声掛けし支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様個々のファイルに薬情を保管しそれとは別に薬情だけをまとめたファイルを作りすぐに確認出来るようにしてあります。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自分で出来ることは極力して頂き、家事等お手伝いなども一緒をお願いしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い時は外に散歩に出掛けたり、外での行事なども行っています。 入居者様のご家族と個別に外出されることも、自由に行っています。	管理者や職員は利用者に制限のない暮らしの提供を願っており、外出に関しては特にその希望が強く夜のイルミネーションツアーや祭りへの参加等で積極的に支援している。日常的には、広い敷地の散歩や庭での洗濯物干し等で季節を感じられるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様は金銭は所有していません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状を作成し家族に送ったり、状況により電話をご家族様にしお話して頂く事も可能です。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日、施設内を丁寧に清掃し清潔な環境を整えるように心掛けています。 気温等に配慮し室内温度をこまめに調節し快適に過ごせるように努めています。	食堂や居間は広く、四つの天窓から差し自然光が明るい。居間の周囲は利用者が歩行練習ができるよう回廊になっている。洗面やトイレ・浴室も広く、介助での歩行もストレスがない。利用者が過ごすスペースが広いので読書やカラオケ等を自分のペースで楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	基本的には席は決まっていますが、入居者様の状態や状況により席を替えています。 TV前にソファがあり自由に座ってもらいゆっくりして頂いています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、備え付けのタンスがありますが必要に応じて使い慣れた家具を配置して頂いています。 衣替えは家族にお願いし、日々のタンス内の整理は職員が行っています。	各居室には備え付けの筆筒があり、掃き出しは明るく日差しもたっぷり取り込める。入所時に使い慣れたものを持参してもらうようお願いしており、家で使用していたテレビや椅子等が見られた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ前に「空室」・「使用中」の札を掛けトイレを使用する際にご自分で変えて頂いています。 フロー内にも余計なものは無くし転倒予防に努めています。		